令和８年度第１回野田市保健医療問題審議会次第

日　時　令和８年９月２９日（火）
午後１時３０分から
場　所　保健センター３階大会議室

1. 開　　会

2. 部 長 挨 拶

3. 議　　題

「野田市健康づくり計画」の進捗状況について

4. そ　の　他

5. 閉　　会

健康づくり計画（重点 10 分野）

（１）栄養・食生活・食育

（２）身体活動・運動

（３）休養・睡眠

（４）喫煙

（５）飲酒

（６）歯と口腔の健康

（７）生活習慣病の発症予防と重症化予防
（がん・循環器病・糖尿病）

（８）母子保健

（９）つながりを生かし、健康を守り支える
環境づくり

(10) 人の生涯を経時的にとらえた健康づくり

野田市健康づくり計画　重点10分野における目標と取組

（１）栄養・食生活・食育

目標：バランスの良い食事を心がけ、ライフステージを通じて適正体重を維持する

項目番号	項目内容		策定時Ｒ５年度実績	Ｒ６年度実績	Ｒ７年度実績	中間評価目標値に対する達成状況	中間評価目標値（R11年度）	目標値（R17年度）	Ｒ７年度の評価・課題	今後の取組	データソース	担当課
1	幼児の肥満傾向児の減少	肥満度＋20%以上の幼児の割合（幼稚園・保育所等）	3.8%	4.2%	3.9%	D（悪化）	3.4%	3.1%以下	肥満度+20%以上の幼児の割合は、横ばいで大きく変わらない傾向にあります。 特に４、５歳児の肥満傾向児の割合が高いため、食習慣が形成される低年齢時からバランスの良い食生活やおやつの摂り方等について、各家庭へ普及啓発する必要があります。	栄養だより等を通じて、幼児期の食に係る情報を発信することで、子育て家庭の正しい食習慣の定着を図ります。 食事に関する相談会や乳幼児健診時の相談等、保護者からの相談に個別に応じることで、正しい食行動を促していきます。	幼稚園・保育所等肥満調査集計表	子ども保育課
2	児童・生徒の肥満傾向児の減少	肥満度＋20%以上の児童の割合（小学校）	12.5%	12.8%	13.7%	D（悪化）	11%	9.2%以下	肥満度20%以上の割合は増加し、悪化傾向にあります。 要因として、コロナ禍で減少した運動習慣がそのまま定着してしまっていることに加えて、前年同様、熱中症対策等で運動量が減少していることが考えられることから、さらに運動習慣の定着を促す必要があります。	サマースクールでエアロビクスなどの運動を取り入れ、運動することの楽しさを参加者に伝え、運動習慣の定着に結び付けます。 引き続きすこやかノートの活用や、生活習慣病予防健診の実施により肥満予防の指導機会を創出していくとともに、養護教諭による個別の保健指導や管理栄養士による個別の栄養指導の推進のほか、家庭への啓発方法について検討していきます。	市内の全児童生徒対象の身体測定結果	学校教育課
		肥満度＋20%以上の生徒の割合（中学校）	12.1%	13.2%	12.9%	D（悪化）	11%	10%以下	肥満度20%以上の割合は、前年度より減少し、改善傾向にありますが、コロナ禍で減少した運動習慣がそのまま定着してしまっていることに加えて、前年同様、熱中症対策等で運動量が減少していることが考えられることから、さらに運動習慣の定着を促す必要があります。	養護教諭による個別の保健指導や栄養士による個別の栄養指導を推進していきます。		
3	朝食を欠食する児童・生徒の減少	小学校４～６年生の朝食欠食割合	6.1%	（10月）6.2%	（10月）6.8%	D（悪化）	6%	4.6%	欠食者割合のうち「週４～５日食べないことがある」と回答する割合が増加し、全体として欠食者割合は増加しているため悪化傾向にあります。朝食の大切さを伝えるための児童への食育指導や、給食だより等による各家庭への周知・啓発に引き続き取り組む必要があります。	令和６年度より、食生活・給食アンケートを年２回実施し、アンケート結果を事後指導に活用していくとともに、児童の実態に合わせた食育指導と、食育だより等を活用した保護者への啓発を学校全体で継続して実施していきます。また、児童の朝食摂取率の向上に向けた取組を検討していきます。	食生活・給食アンケート	学校教育課
		中学校１～３年生の朝食欠食割合	8.5%	（10月）9.4%	（10月）7.9%	B（改善）	8.2%	6.9%	欠食者割合のうち「週４～５日食べないことがある」「ほとんど食べない」と回答する割合が共に減少し、欠食者割合が全体として減少しているため改善傾向にあります。 今後も、引き続き朝食の大切さについて生徒や保護者への啓発を学校全体で実施していく必要があります。	令和６年度より、食生活・給食アンケートを年２回実施し、アンケート結果を事後指導に活用していくとともに、生徒の実態に合わせた食育指導と、食育だより等を活用した保護者への啓発を学校全体で継続して実施していきます。また、生徒の朝食摂取率の向上に向けた取組を検討していきます。		
4	学校給食において主な地場産物を使用する割合		51.7%	42.6%	53.8%	A（達成）	53%	60%以上	野田市産枝豆、野田市産キャベツ、野田市産なすの使用割合が増加し改善傾向にあります。旬の時期や提供回数が限られる主要地場産物のみつばは、枝豆と同様に、野田市産の使用を基本とすることについて更に周知徹底を図る必要があります。	引き続き、野田市産の野菜を積極的に使用するとともに、特に、旬の時期や提供回数が限られるみつばや枝豆といった地場産物は野田市産の使用を基本とすることを徹底します。 また、発注時期の参考となるよう、現在の給食食材提供登録農家の栽培品種と収穫時期、納品可能範囲や納品条件を把握し、各校及び給食センターへ周知していくことについて検討します。	各小中学校及び学校給食センターの購入実績	学校教育課

野田市健康づくり計画　重点10分野における目標と取組

（１）栄養・食生活・食育

目標：バランスの良い食事を心がけ、ライフステージを通じて適正体重を維持する

項目番号	項目内容		策定時Ｒ５年度実績	Ｒ６年度実績	Ｒ７年度実績	中間評価目標値に対する達成状況	中間評価目標値（R11年度）	目標値（R17年度）	Ｒ７年度の評価・課題	今後の取組	データソース	担当課
５	適正体重を維持している者の増加（肥満BMI25以上、やせBMI18.5未満の減少）	40～50歳代男性の肥満者割合	41.7%	43.0%	45.0%	D（悪化）	40%未満	38%未満	肥満者割合は増加し悪化傾向にあります。バランスの良い食事や適正エネルギー摂取等について、特定健診および特定保健指導等の事業で普及啓発をより積極的に行う必要があります。	自身の適正体重を把握し生活習慣を見直す機会として、受診勧奨を行い、特定健診受診率の向上に取り組んでいきます。 特定保健指導は、内容を充実させ、対象者が継続的に取り組むことが出来るように支援していきます。	特定健診	保健センター
		40～60歳代女性の肥満者割合	25.0%	25.2%	25.5%	D（悪化）	23.5%未満	22%未満	肥満者割合は増加し悪化傾向にあります。バランスの良い食事や適正エネルギー摂取等について、のだ健康・スポーツアプリや健康づくり料理講習会等の事業で普及啓発をより積極的に行う必要があります。	適正体重について、のだ健康・スポーツアプリを通じて、歩数や体重の変化を記録・確認することを推進し、日頃からバランスの良い食事や適正エネルギー摂取、身体活動量の増加に取り組めるようにします。 　また、健康づくり料理講習会をはじめとする食生活改善推進員活動を充実していきます。	特定健診	
		20～30歳代女性のやせの者の割合	17.6%	18.3%	13.9%	A（達成）	16%未満	14%未満	やせの者の割合は減少し改善傾向にありますが、引き続き経年変化を注視していく必要があります。 そのため、今後もバランスの良い食事や適正エネルギー摂取等についての普及啓発をより積極的に行う必要があります。	20～30代女性のやせのリスクについて、乳幼児健診や離乳食講習会、がん検診（子宮・乳）の場を利用して情報提供していきます。 のだ健康・スポーツアプリを活用し、体重の管理を行えるよう周知していきます。	若者健診	
6	朝食を食べる者の割合の増加（朝食を抜くことが週に３回以上ない人の増加）	18歳以上の者の割合	86.2%	87.6%	87.2%	B（改善）	88%以上	90%以上	18歳以上で朝食を食べる者の割合はやや増加し改善傾向にあります。 年齢構成別に見ると、若年層・働き世代に朝食の欠食が多く、今後の生活習慣病の発症率や次世代への影響もあるため、意識を変化させる必要があります。	若年層や働き世代をターゲットにしたアプローチを検討していきます。配布している乳幼児健診の資料の内容を精査し、親世代向けに朝食の重要性などを追加し、意識を高めていきます。	特定健診・若者健診	
7	農家開設型貸農園利用者数		533人	516人	513人	D（悪化）	560人	616人	前年度から大きな離脱なく513人と引き続き高い稼働率を保っているが、減少した定員枠内でより多くの市民に利用機会を提供するための工夫が課題となっています。	空き区画の迅速な情報発信やマッチングを行い、利用者数の向上に取り組みます。	各農園からの現状聞き取り結果	農政課
8	直売所における１日平均利用者数		281人	288人	268人	D（悪化）	295人	310人	利用者数は前年度を下回っています。利用者の来店意欲を高めるため、集客につながる企画の実施や販売促進の強化が課題となっています。	利用者数の増加に向け、特売日や試食会、一口サイズの飲食物の無料サービスなどのイベントを積極的に実施し、集客力の向上とリピーターの確保に取り組みます。	直売所の売り上げ報告	
9	えだまめオーナー制度利用人数		346人	346人	296人	D（悪化）	381人	457人	利用者は減少しており、要因としては令和７年度より１区画の利用料金を3,000円から3,500円に見直しを行ったことが考えられます。収穫体験ができることに加え、市場と比べて枝豆を多く収穫できることを周知する必要があります。	えだまめオーナーの増加を図るため、適正な利用料金の見直しを実施します。 新規申込者を増やすためのＰＲ方法について見直しを行います。	野田市農産物ブランド化推進協議会からの報告	

野田市健康づくり計画　重点10分野における目標と取組

（２）身体活動・運動

目標：正しい知識を取得し、運動習慣の定着を目指し、各ライフステージで楽しく体を動かす

項目番号	項目内容		策定時 Ｒ５年度 実績	Ｒ６年度 実績	Ｒ７年度 実績	中間評価 目標値に対する達成状況	中間評価 目標値 （R11年度）	目標値 （R17年度）	Ｒ７年度の評価・課題	今後の取組	データソース	担当課
1	運動やスポーツを習慣的に行っていない子どもの割合の減少	小学５年生の男子	11.4%	13.9%	12.7%	D（悪化）	10%	7%	運動やスポーツを習慣的に行っていない子どもの割合（小学校５年生）が増加しており、悪化傾向にあります。今後、家庭との連携を図り、運動習慣が定着するよう普及活動をしていく必要があります。	引き続き、各学校において、体育を要として、運動が楽しいと思えるような授業を実施していきます。 教師を対象とした研修会等の中で、野田市の子どもの現状を伝えるとともに、各学校の実態に応じた取り組みの工夫ができないかを検討していきます。	全国体力・運動能力、運動習慣等調査	指導課
		小学５年生の女子	18.5%	21.8%	17.5%	B（改善）	14%	12%				
2	1日30分以上の軽く汗をかく運動を週２日以上、１年以上実施している者の割合の増加	20～64歳	男性 37.9%	39.1%	41.6%	A（達成）	40%	43%	20歳から64歳の女性は、割合が減少しており、悪化傾向にあります。引き続き、運動習慣が定着するよう働きかけを行っていく必要があります。 市民が日常生活の中で無理なく継続して運動できる環境整備や、ライフステージに応じた運動機会の充実を図るとともに、運動習慣の定着に向けた普及啓発を継続して実施する必要があります。	のだ健康・スポーツアプリを活用し、室内で手軽にできる運動についての情報提供や、健康づくりに関するイベントや健康に関する情報発信をするとともに、参加者へアプリポイントの付与を行うことで運動習慣の定着を目指します。 ウォーキング教室や特定保健指導等を通じてウォーキングや筋力トレーニング等、日常生活の中で無理なく取り組める具体的な方法について情報提供を行い、個人にあった適度な運動が習慣化できるように支援していきます。	特定健診・若者健診	保健センター
			女性 32.2%	29.2%	30.2%	D（悪化）	35%	38%				
		65～74歳	男性 50.3%	52.4%	51.8%	B（改善）	55%	60%				
			女性 46.3%	49.4%	48.3%	B（改善）	50%	55%				
3	健康・スポーツアプリ(令和７年３月運用開始予定)の登録者数の増加		―	933人	2623人	B（改善）	7,500人	12,000人	アプリ開始から、令和７年度は、登録者数が約1,700名増加し、利用者の半数以上が10～50歳代で、幅広い世代で利用されています。引き続き、普及啓発を行う必要があります。	様々な健康づくりイベントにおいて、参加者へポイントを付与したり、現地でアプリの登録サポートしていくことで登録者数の増加を目指します。アプリを活用し歩数や体重記録を入力できるようにすることで、健康指標を見える化し、市民一人ひとりが楽しみながら健康づくりに取り組むことができるように支援していきます。	健康・スポーツアプリ	

野田市健康づくり計画　重点10分野における目標と取組

（３）休養・睡眠

目標:睡眠について正しい知識を身につけ、十分な睡眠をとる

項目番号	項目内容		策定時 Ｒ５年度 実績	Ｒ６年度 実績	Ｒ７年度 実績	中間評価 目標値に対する達成状況	中間評価 目標値 （R11年度）	目標値 （R17年度）	Ｒ７年度の評価・課題	今後の取組	データソース	担当課
1	睡眠で休養がとれている者の増加	20歳～59歳	72.2%	70.9%	69.9%	D （悪化）	80.0%	90%	睡眠で休養がとれている者の割合が、いずれの年代も低下しており、悪化傾向にあります。 睡眠や休養の重要性について普及啓発を行い、質のよい睡眠時間を確保し、心身の健康の維持・増進を図っていく必要があります。	市報、ホームページ等で睡眠不足や睡眠の質の低下が心身の健康に及ぼす影響について伝えるとともに睡眠や休息を確保する重要性について普及啓発を行っていきます。健診後の保健指導の際に、適切な睡眠時間の確保することの大切さを対象者の生活習慣に合わせて伝えていきます。	若者健診・特定健診	保健センター
		60歳以上	76.4%	74.7%	73.4%	D （悪化）	84.0%	90%				

野田市健康づくり計画　重点10分野における目標と取組

（４）喫煙

目標：喫煙について正しく知り、健康被害から自分自身を守る

項目番号	項目内容		策定時Ｒ５年度実績	Ｒ６年度実績	Ｒ７年度実績	中間評価目標値に対する達成状況	中間評価目標値（R11年度）	目標値（R17年度）	Ｒ７年度の評価・課題	今後の取組	データソース	担当課
1	喫煙率の減少（喫煙をやめたい方がやめる）	男性	22.1%	12.4%	実施なし	E（実施なし）	15%	10%	令和６年度の調査では喫煙率は減少しており、改善傾向にあります。引き続き、禁煙に関する啓発を行うとともに、禁煙を希望する人が禁煙に取り組めるように支援していく必要があります。	特定保健指導等の機会を活用し、禁煙に関する正しい知識を伝えていきます。また、禁煙を希望する方へ市内の禁煙外来を持つ医療機関の情報提供を行っていきます。	千葉県生活習慣に関するアンケート調査（野田保健所管内）	保健センター
		女性	10.6%	7.8%	実施なし	E（実施なし）	8.8%	5%				
2	喫煙が健康に及ぼす影響について正しい認識を持つ人を増やす		96.0%	81.4%	実施なし	E（実施なし）	100%	100%	令和６年度の調査では喫煙が健康に及ぼす影響について正しい認識を持つ人の割合は低下しており、悪化傾向にあります。喫煙が健康に及ぼす害について正しい知識をより広く普及していく必要があります。	喫煙・受動喫煙による健康への影響について対象者に応じた普及啓発を行います。小中学校と連携を図り、児童、生徒、その保護者に対して喫煙及び受動喫煙に関する情報提供を行うことで、若い世代から正しい知識の定着を図ります。		
3	妊娠中の喫煙をなくす		2.5%	2.0%	3.1%	D（悪化）	0%	0%	喫煙している妊婦の割合が増加傾向にあります。そのため、妊娠届出時に喫煙のリスクについて説明を行い、その後も電話などで状況を確認し、アドバイスを行っています。今後も継続して周知・啓発に取り組む必要があります。	妊娠届出時や乳幼児健診等の機を捉え、喫煙や受動喫煙が胎児・乳児に与える影響についての注意喚起・啓発を行います。また、妊娠中も喫煙を続けている方に対しては、継続して禁煙に向けた支援を行っていきます。	妊娠届出時の聞き取り調査結果	

野田市健康づくり計画　重点10分野における目標と取組

（５）飲酒

目標：飲酒についての正しい知識を身につけ、適正な飲酒量を知る

項目番号	項目内容		策定時 Ｒ５年度 実績	Ｒ６年度 実績	Ｒ７年度 実績	中間評価 目標値に対する達成状況	中間評価 目標値 （R11年度）	目標値 （R17年度）	Ｒ７年度の評価・課題	今後の取組	データソース	担当課
1	生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している人を減らす ※令和６年度より特定健診・若者健診の問診（飲酒）における回答選択肢の変更があり、計画策定時（令和５年度）との単純比較には留意が必要	男性	12.6% ※１	14.0%	14.9%	D （悪化）	10%	8%	生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している男性の割合は増加傾向にあります。 アルコールは多様な健康問題や生活習慣病と密接に関連しているため、健康に配慮した飲酒に関する継続的な啓発が必要です。	栄養相談、保健指導等を通じて、アルコールが健康に及ぼす影響や健康に配慮した飲酒方法などの正しい知識を伝え、適正な飲酒習慣の普及に努めていきます。	特定健診・若者健診	保健センター
		女性	9.4% ※２	11.2%	11.2%	D （悪化）	7%	5%				
2	妊娠中の飲酒をなくす		0.6%	0.7%	0.5%	B （改善）	0%	0%	妊娠中の飲酒をやめる方の割合が横ばいです。そのため、妊娠届出時に妊産婦の飲酒が胎児に与える影響について説明を行い、その後も電話などで状況を確認し、アドバイスを行っています。今後も継続して周知・啓発に取り組む必要があります。	妊娠届出時や乳幼児健診等の機を捉え、飲酒が胎児・乳児に与える影響についての注意喚起・啓発を行います。また、妊娠中も飲酒を継続している方に対しては、継続して禁酒に向けた支援を行っていきます。	妊娠届出時の聞き取り調査結果	

※１生活習慣病のリスクを高める量･･･１日当たりの純アルコール摂取量が40ｇ以上
「毎日×２合以上」+「時々×３合以上」
※２生活習慣病のリスクを高める量･･･１日当たりの純アルコール摂取量が20ｇ以上
「毎日×１合以上」+「時々×２合以上の半数」+「ほとんど飲まない×３合以上」
※１、２　Ｒ５年度時点で、県と同項目での現状値がないため、上記の同等値として記載

野田市健康づくり計画　重点10分野における目標と取組

（６）歯と口腔の健康

目標：むし歯・歯周病を予防し、生涯を通じてしっかりかんでおいしく食べる

項目番号	項目内容		策定時 Ｒ５年度 実績	Ｒ６年度 実績	Ｒ７年度 実績	中間評価 目標値に対する達成状況	中間評価目標値 （R11年度）	目標値 （R17年度）	Ｒ７年度の評価・課題	今後の取組	データソース	担当課
1	３歳児でう蝕(しょく)のない者の割合の増加		90.4%	92.0%	91.5%	B （改善）	95%	97%	３歳児でう蝕のない者の割合は増加しており、改善傾向にあります。 引き続き乳幼児健診や各種歯科保健事業を通じて、歯・口腔の健康に関する正しい知識の普及啓発を行っていく必要があります。	乳幼児健診や各種歯科保健事業を通じて、歯みがきだけでなく適切な間食の摂り方についても正しい知識の普及を行っていきます。	３歳児健康診査	保健センター
2	１歳６か月児で毎日保護者が仕上げみがきをする習慣のある者の増加		91.2%	95.2%	95.2%	A （達成）	95%	97%	１歳６か月児で毎日保護者が仕上げみがきをする習慣のある者の割合は増加しており、改善傾向です。引き続き、乳幼児健診や各種歯科保健事業にて仕上げみがきの重要性を周知していく必要があります。	仕上げみがきの重要性については、歯が萌出する前の妊娠中や乳幼児期にも情報提供する必要があるため、両親学級や３か月児健康相談等を通じて普及啓発していきます。	１歳６か月児健康診査	
3	12歳児（中学１年）でう蝕のない者の割合の増加		65.8%	78.8%	77.0%	A （達成）	70.5%	82%	12歳児（中学１年）でう蝕のない者の割合は増加しており、改善傾向にあります。 引き続き、正しい歯みがきの方法を習得して習慣化していく必要性やむし歯や歯周病疾患予防について、児童生徒及び保護者に対して普及啓発していく必要があります。	歯科健診を通じて、むし歯の予防と早期治療を推進していきます。 学校歯科医と連携し、正しい歯のみがき方や適切な間食の摂り方等に関する歯科保健指導の充実に努めます。 市内小中校で実施している歯みがき指導の充実を図ります。また、むし歯予防や正しい生活習慣の重要性について保健だより等で周知していきます。	学校歯科健康診査	学校教育課
4	中学生における歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少		5.8%	5.9%	7.9%	D （悪化）	5.4%	5%	中学生における歯肉に炎症所見を有する者の割合は増加しており、悪化傾向にあります。 特に中学生は、ホルモンバランスが原因の思春期性歯肉炎にかかりやすい時期であるため、小学校高学年や中学生に対する歯科保健指導や歯みがき指導の検討を進めていく必要があります。	定期的な歯科健診や保健教育を通じて、歯周病予防と早期治療を推進していきます。 学校歯科医と連携し、正しい歯のみがき方や適切な間食の摂り方等に関する歯科保健指導の充実に努めます。また、歯周病予防や正しい生活習慣の重要性について保健だより等で周知していきます。		
5	20歳代における歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少		43.90%	48.6%	57.8%	D （悪化）	20%	10%	20歳代における歯肉に炎症所見を有する者の割合は増加しており、悪化傾向にあります。 学校健診の終了に伴い、歯科健診を受診する機会がなくなり、ライフスタイルの変化も起こる時期のため、歯肉炎に罹りやすくなっていると考えられることから、定期的な歯科健診の機会を提供していく必要があります。	市報やまめメールやＳＮＳ等を活用し、定期的な歯科健診の重要性や歯周疾患検診の受診勧奨を積極的に行います。 また、のだ健康・スポーツアプリを活用しお口の健康づくりに関する情報発信をしていきます。	歯周疾患検診	保健センター
6	進行した歯周炎を有する者の割合の減少	40歳代	58.1%	56.0%	52.4%	B （改善）	40%	25%	進行した歯周炎を有する者の割合は、40歳代、60歳代ともに減少しており、改善傾向にあります。今後も歯周疾患検診の受診を推進し、定期的な歯科健診の機会の提供を行う必要があります。	肥満や糖尿病などの全身疾患と歯周病との関連が指摘されているため、特定保健指導利用者に対して、定期的な歯科健診の重要性や歯周疾患検診の受診勧奨を行っていきます。 また、のだ健康・スポーツアプリを活用しお口の健康づくりに関する情報発信をしていきます。		
		60歳代	60.2%	61.1%	55.4%	B （改善）	45%	40%				

野田市健康づくり計画　重点10分野における目標と取組

（６）歯と口腔の健康

目標：むし歯・歯周病を予防し、生涯を通じてしっかりかんでおいしく食べる

項目番号	項目内容		策定時 Ｒ５年度 実績	Ｒ６年度 実績	Ｒ７年度 実績	中間評価 目標値に対する達成状況	中間評価目標値 （R11年度）	目標値 （R17年度）	Ｒ７年度の評価・課題	今後の取組	データソース	担当課
7	未処置歯を有する者の割合の減少	40歳代	28.6%	34.8%	33.3%	D（悪化）	20%	15%	40歳代の未処置歯を有する者の割合は増加しており、悪化傾向にあります。仕事や育児等で忙しく、痛みの伴わないう蝕は受診につながりにくいことが原因であると考えます。 60歳代は未処置歯を有する者の割合が減少しており、改善傾向にあります。定年退職や子育ての終了などにより、働き盛り世代と比較して時間的な余裕が生まれ、歯科へ通院しやすくなることが一因と考えます。 今後も歯周疾患検診の受診を推進していく必要があります。	市報やまめメールやＳＮＳ等を活用し、定期的な歯科健診の重要性や歯周疾患検診の受診勧奨を積極的に行います。 また、お口の健康づくりに関する情報発信の場としてのだ健康・スポーツアプリを活用していきます。	歯周疾患検診	保健センター
		60歳代	25.2%	25.8%	22.8%	B（改善）	20%	15%				
8	過去１年間に歯科健診を受けている者の割合の増加	40、50歳代	34.6%	33.4%	30.1%	D（悪化）	50%	65%	過去１年間に歯科健診を受けている者の割合は、40、50歳代が減少しており、悪化傾向にあります。仕事等で時間的に余裕がなく、歯科健診の受診につながりにくい年代と考えます。 60、70歳代では、策定時より増加しており、時間的余裕が生まれることにより、歯科へ通院しやすくなることが一因と考えます。今後も定期的な歯科受診の重要性を周知していく必要があります。	歯周疾患検診を受診した際にお渡しする結果票を具体的に記載し、現状を受診者に把握してもらうことで、歯周疾患検診受診後も定期的な歯科健診を行うよう行動変容を促していきます。 また、お口の健康づくりに関する情報発信の場としてのだ健康・スポーツアプリを活用していきます。		
		60、70歳代	39.4%	47.4%	40.2%	B（改善）	55%	70%				
9	60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の割合の増加		91.6%	91.2%	92.7%	B（改善）	95%	97%	60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の割合は増加しており、改善傾向にあります。歯科健診が定着してきていることが一因と考えられます。今後も歯周疾患検診の受診を推進する必要があります。	市報やまめメールやＳＮＳ等を活用し、定期的な歯科健診の重要性や歯周疾患検診の受診勧奨を積極的に行います。 また、歯周疾患検診の結果に生涯にわたる定期的な歯科受診習慣の重要性を記載し周知していくことで、歯周疾患検診受診後も定期的な歯科健診を行うよう行動変容を促していきます。		
１０	80歳で20歯以上の自分の歯を有する者の割合の増加		77.0%	77.4%	69.0%	D（悪化）	85%	90%	80歳で20歯以上の自分の歯を有する者の割合は減少しており、悪化傾向にあります。今後も定期的な歯科受診の重要性を周知していく必要があります。	高齢者でも情報を得られやすい市報や公共施設でのポスター掲示を利用して、定期的な歯科健診の重要性を周知していきます。 さらに、より多くの歯の本数を残すだけでなく、口腔機能の維持・向上を目的としてオーラルフレイルについても歯科保健事業の講話等で知識の普及啓発を行っていきます。		
１１	定期的に歯科健診を実施する特別養護老人ホーム及び老人保健施設の割合の増加		82.4%	88.2%	88.2%	B（改善）	100%	100%	定期健診を行う事業所は増加しており、改善傾向にあります。今後も歯科健診の重要性を周知していく必要があります。	各施設に対して定期的に歯科健診を行うことの重要性を周知できるよう検討していきます。	各施設への聞き取り	高齢者支援課

野田市健康づくり計画　重点10分野における目標と取組

（７）生活習慣病の発症予防と重症化予防

目標：健康に関する知識を持ち、健康づくりに励む

項目番号	項目内容		策定時Ｒ５年度実績	Ｒ６年度実績	Ｒ７年度実績	中間評価目標値に対する達成状況	中間評価目標値（R11年度）	目標値（R17年度）	Ｒ７年度の評価・課題	今後の取組	データソース	担当課
1	がん検診受診率の増加	胃がん検診（男性）	3.6%	3.5%	3.4%	D（悪化）	6.5%	10%	各がん検診については、一部改善が見られますが全体として、受診率が減少しています。新型コロナウイルス感染症に伴う受診率減少と比較すると少しずつ改善傾向ではあるものの、依然として新型コロナウイルス感染症以前の受診率には戻っていない状況です。また令和６年度と令和７年度を比較すると大腸がん(女性)以外は、どのがん検診もやや微減し悪化傾向があります。がんの早期発見・早期治療につなげるため、がん検診の重要性について普及啓発を行い、受診率の向上を図っていく必要があります。	がん検診等に関する情報の全戸配布、がん検診受診率向上キャンペーンの実施、乳幼児健康診査を通じた周知、医療機関や公共施設へのポスター掲示、市内の企業等へのチラシ配布などを実施し、がん検診の必要性や早期発見・早期治療の重要性について普及啓発を行っていきます。また、受診勧奨や再勧奨を実施し、受診しやすい環境の整備を進めることで、がん検診受診率の向上を図っていきます。	がん検診	保健センター
		胃がん検診（女性）	5.7%	5.5%	5.0%	D（悪化）	11%	15%				
		肺がん検診（男性）	9.8%	10.3%	9.9%	C（現状維持）	13%	20%				
		肺がん検診（女性）	13.7%	14.8%	14.3%	B（改善）	20%	25%				
		大腸がん検診（男性）	10.5%	10.2%	10.1%	D（悪化）	16%	20%				
		大腸がん検診（女性）	16.5%	16.1%	16.3%	C（現状維持）	25%	30%				
		子宮頸がん検診	14.3%	14.6%	14.0%	D（悪化）	18%	25%				
		乳がん検診	19.3%	19.2%	18.6%	D（悪化）	25%	30%				
2	高血圧の改善（収縮期血圧の平均値）	男性	131.7 mmHg	130.1 mmHg	130.7 mmHg	B（改善）	130mmHg未満	130mmHg未満	脂質異常症は改善がみられた一方、高血圧及び血糖値については男性が目標を下回っており、悪化傾向にあります。 今後は生活習慣病の発症予防および重症化予防に向けた普及啓発をより一層強化していく必要があります。また、特定健診の受診率向上や、健診後の保健指導など、切れ目のない継続的な支援につなげていく必要があります	若者健康診査の受診券を対象者全員に通知することで青年期、壮年期からの健診受診につなげ、若いうちから健康状態を把握し、生活習慣の改善を意識しすることで、将来的な生活習慣病の発症予防および重症化予防に取り組んでいきます。 特定保健指導等の機会を活用し、高血圧・脂質異常症・血糖値の適正管理の重要性について普及啓発を行うとともに、減塩、バランスのとれた食生活、適度な運動、適正体重の維持等、具体的な生活習慣改善について対象者に合わせた支援をしていきます。 地域において生活習慣病予防をテーマとした食生活改善推進員による「健康づくり料理講習会」を実施し、地域全体の健康意識を高める活動を行っていきます。	特定健診	
		女性	130.4 mmHg	129.4 mmHg	129.8 mmHg	A（達成）	130 mmHg未満	130 mmHg未満				
3	脂質異常の改善（ＬＤＬコレステロール160mg/dl以上の者の割合）	男性	7.2%	7.0%	6.5%	B（改善）	5%	3%				
		女性	12.1%	11.7%	11.3%	B（改善）	8%	5%				
4	血糖値の改善（ＨｂＡ１ｃ（ＮＧＳＰ値）8.0以上の者の割合）	男性	0.8%	1.4%	1.5%	D（悪化）	0.7%	0.6%				
		女性	0.7%	0.7%	0.6%	A（達成）	0.6%	0.5%				

野田市健康づくり計画　重点10分野における目標と取組

（８）母子保健

目標：すべての親子が健やかに暮らすことができる

項目番号	項目内容	策定時Ｒ５年度実績	Ｒ６年度実績	Ｒ７年度実績	中間評価目標値に対する達成状況	中間評価目標値（R11年度）	目標値（R17年度）	Ｒ７年度の評価・課題	今後の取組	データソース	担当課
1	妊娠11週以下の妊娠届出率を増やす	91.5%	92.1%	91.7%	B（改善）	95%	95%	妊娠届出数は年々減少傾向にあり、そのうち11週以下の届出割合は横ばいで推移しています。令和７年10月より市内の産婦人科、小児予防接種実施医療機関に対し、母子健康手帳アプリのポスターに「早めの妊娠届出」を促すコメントを加え、掲示を依頼しました。 より多くの対象者に確実かつ効果的に情報を伝える必要があるため、今後はより伝わりやすい内容にポスターを修正・刷新し、早期の妊娠届出に向けた啓発をさらに強化していく必要があります。	市内産婦人科に掲示するポスターについて、具体的な妊娠届出の流れや妊婦健診の重要性を記載した内容に修正し、早期の妊娠届出の普及・啓発を行います。また、妊娠届出時には保健師・助産師による面接を実施し、妊婦健診受診の重要性を説明します。届出週数が遅かった妊婦に対しては、その理由を丁寧に聞き取り、支援が必要な妊婦については医療機関等と情報を共有し、関係機関と連携した個別支援を継続して行っていきます。	厚生労働省 地域保健・健康増進事業報告の概況 母子保健事業実績報告（千葉県）	保健センター
2	低出生体重児の割合の減少	9.7%	11.2%	12.0%	D（悪化）	減少	減少	低出生体重児の割合は増加傾向です。妊娠届出時には、妊娠中の食事等健康管理について助言指導を行いました。喫煙者には低出生体重児の要因でもある喫煙のリスクについて説明を行い、その後も電話などで状況を確認し、アドバイスを行っています。今後も、妊娠中の母子の健康管理について、普及啓発と保健指導を継続していく必要があります。	妊娠届出時から妊婦及びその家族に対し、定期的な妊婦健診の重要性を伝え、自身の健康管理ができるよう、継続して支援していきます。また喫煙・飲酒等をしている妊婦やその家族に対して低出生体重児のリスクのひとつになることをリーフレット等を用いて丁寧に説明していきます。	千葉県人口動態統計月報年計（概数）の概況	
3	【再掲】妊娠中の喫煙をなくす	2.5%	2.0%	3.1%	D（悪化）	0%	0%	喫煙している妊婦の割合が増加傾向にあります。そのため、妊娠届出時に喫煙のリスクについて説明を行い、その後も電話などで状況を確認し、アドバイスを行っています。今後も継続して周知・啓発に取り組む必要があります。	妊娠届出時や乳幼児健診等の機を捉え、喫煙や受動喫煙が胎児・乳児に与える影響についての注意喚起・啓発を行います。また、妊娠中も喫煙を続けている方に対しては、継続して禁煙に向けた支援を行っていきます。	妊娠届出時の聞き取り調査結果	
4	【再掲】妊娠中の飲酒をなくす	0.6%	0.7%	0.5%	B（改善）	0%	0%	妊娠中の飲酒をやめる方の割合が横ばいです。そのため、妊娠届出時に妊産婦の飲酒が胎児に与える影響について説明を行い、その後も電話などで状況を確認し、アドバイスを行っています。今後も継続して周知・啓発に取り組む必要があります。	妊娠届出時や乳幼児健診等の機を捉え、飲酒が胎児・乳児に与える影響についての注意喚起・啓発を行います。また、妊娠中も飲酒を継続している方に対しては、継続して禁酒に向けた支援を行っていきます。		
5	妊婦歯科健康診査の受診率	21.7%	16.9%	17.1%	D（悪化）	25%	30%	妊婦歯科健康診査の受診率は減少しています。 現在、協力歯科医院へのポスター掲示及び妊娠届出時と両親学級で妊婦歯科健康診査の周知・啓発を行っていますが、今後さらに周知啓発をしていく必要があります。	市内産婦人科の協力を得てポスターを掲示するほか、妊婦への支援時やＬＩＮＥ配信、にじいろｎａｖｉを活用した周知啓発を推進します。さらに、市内歯科医院に対しては、受診時の健診券の利用を積極的に促してもらえるよう、協力を依頼します。	妊婦歯科健康診査	

野田市健康づくり計画　重点10分野における目標と取組

（８）母子保健

目標：すべての親子が健やかに暮らすことができる

項目番号	項目内容		策定時Ｒ５年度実績	Ｒ６年度実績	Ｒ７年度実績	中間評価目標値に対する達成状況	中間評価目標値（R11年度）	目標値（R17年度）	Ｒ７年度の評価・課題	今後の取組	データソース	担当課
6	乳児家庭全戸訪問の実施率を上げる		97.2%	97.2%	94.9%	D（悪化）	99.5%	99.5%	訪問実施率が減少している背景には、海外への長期里帰りや低出生体重児の長期入院等の理由により、訪問を見送らざるを得なかったケースが含まれていることが関連していると考えられます。 出生時やその後の状況を確実に把握するため、妊娠届出時から出生連絡票の提出を促し、乳児家庭全戸訪問の実施を図る必要があります。	出生時の状況が把握できるよう、妊娠届出時に出生連絡票の提出を促し、乳児全戸訪問について周知します。出生連絡票の提出方法について、郵送や来所以外にオンライン（電子申請）による手続きも選べることを妊娠届出時等に広く周知します。	乳児家庭全戸訪問	保健センター
7	乳幼児健康診査の受診率	１歳６か月児健康診査	97.7%	96.4%	99.8%	B（改善）	100%	100%	受診率は増加しています。 未受診者に対し、家庭訪問や架電等で家庭状況を確認し、受診勧奨を継続して行う必要があります。	市内保育園、幼稚園施設や子育て支援施設にポスター掲示を行い、健診の必要性について周知していきます。また、未受診者には家庭訪問や架電等で家庭状況を確認するとともに、必要に応じて関係機関と連携し、虐待予防も視野に入れた状況確認や支援を行います。	１歳６か月児健康診査	
		３歳児健康診査	92.6%	95.7%	94.3%	B（改善）	100%	100%	受診率は増加しています。 未受診者に対し、家庭訪問や架電等で家庭状況を確認し、受診勧奨を継続して行う必要があります。	市内保育園、幼稚園施設や子育て支援施設にポスター掲示を行い、健診の必要性について周知していきます。また、未受診者には家庭訪問や架電等で家庭状況を確認するとともに、必要に応じて関係機関と連携し、虐待予防も視野に入れた状況確認や支援を行います。	３歳児健康診査	
8	麻しん風しん予防接種１期接種率		89.0%	94.8%	99.9%	A（達成）	95%以上	95%以上	令和７年度は高い接種率となっており、増加しています。過去の全国的なワクチン供給不足により、標準的な定期接種の対象期間内に希望通りの接種ができなかった状況を考慮し、公費で定期接種として受けられる期間を延長する特例措置として令和８年度中まで定期接種として接種可能なことから、対象者に対して周知していく必要があります。	乳幼児健康診査、訪問等の機会をとらえて、接種に関する情報提供を実施していきます。 未接種者に対しては、個別通知を行い接種勧奨をしていきます。	予防接種	

（８）母子保健

目標：すべての親子が健やかに暮らすことができる

項目番号	項目内容		策定時Ｒ５年度実績	Ｒ６年度実績	Ｒ７年度実績	中間評価目標値に対する達成状況	中間評価目標値（R11年度）	目標値（R17年度）	Ｒ７年度の評価・課題	今後の取組	データソース	担当課
９	この地域で今後も子育てをしていきたい者の割合	３か月児健康相談	95.0%	95.1%	92.7%	D（悪化）	100%	100%	この地域で今後も子育てをしていきたい者の割合は減少傾向です。妊娠届出時に身近な相談相手として地区の担当保健師を紹介しました。市の子育て情報の提供や母子保健事業での関わりを通じて信頼関係を築いていく必要があります。	妊娠届出時から妊婦に寄り添い、継続して信頼関係を築いていきます。保護者が困ったときにいつでも相談できる体制を整え、不安の解消に努めます。 相談時には、保護者の話を丁寧に傾聴した上で、こどもの年齢に応じた困りごとへの助言や必要な支援の紹介を行います。 また、母子手帳アプリやＬＩＮＥ配信、子育て情報ポータルサイト（にじいろｎａｖｉ）を活用した子育て情報の効果的な発信を行うとともに、保健推進員が企画する「ホッとひといき子育て応援ルーム」を実施し、地域の子育て世代の母子が気軽に集える場の提供を行っていきます。	乳幼児健康診査健診時すこやか親子21アンケート	保健センター
		１歳６か月児健康診査	94.0%	92.6%	94.6%	B（改善）	100%	100%	この地域で今後も子育てをしていきたい者の割合は増加傾向です。 年齢に応じた子育てに関する困りごとが増える時期であり、幼児の健康・発育に関する情報の提供を行う必要があります。	妊娠届出時から妊婦に寄り添い、継続して信頼関係を築いていきます。保護者が困ったときにいつでも相談できる体制を整え、不安の解消に努めます。 相談時には、保護者の話を丁寧に傾聴した上で、こどもの年齢に応じた困りごとへの助言や必要な支援の紹介を行います。 また、母子手帳アプリやＬＩＮＥ配信、子育て情報ポータルサイト（にじいろｎａｖｉ）を活用した子育て情報の効果的な発信を行うとともに、保健推進員が企画する「ホッとひといき子育て応援ルーム」を実施し、地域の子育て世代の母子が気軽に集える場の提供を行っていきます。	乳幼児健康診査健診時すこやか親子21アンケート	
		３歳児健康診査	93.1%	93.0%	94.3%	B（改善）	100%	100%	この地域で今後も子育てをしていきたい者の割合は増加傾向です。 年齢に応じた子育てに関する困りごとや支援を行い、身近な相談者として丁寧に対応していく必要があります。	妊娠届出時から妊婦に寄り添い、継続して信頼関係を築いていきます。保護者が困ったときにいつでも相談できる体制を整え、不安の解消に努めます。 相談時には、保護者の話を丁寧に傾聴した上で、こどもの年齢に応じた困りごとへの助言や必要な支援の紹介を行います。 また、母子手帳アプリやＬＩＮＥ配信、子育て情報ポータルサイト（にじいろｎａｖｉ）を活用した子育て情報の効果的な発信を行うとともに、保健推進員が企画する「ホッとひといき子育て応援ルーム」を実施し、地域の子育て世代の母子が気軽に集える場の提供を行っていきます。	乳幼児健康診査健診時すこやか親子21アンケート	

野田市健康づくり計画　重点10分野における目標と取組

（８）母子保健

目標：すべての親子が健やかに暮らすことができる

項目番号	項目内容		策定時Ｒ５年度実績	Ｒ６年度実績	Ｒ７年度実績	中間評価目標値に対する達成状況	中間評価目標値（R11年度）	目標値（R17年度）	Ｒ７年度の評価・課題	今後の取組	データソース	担当課
１０	育てにくさを感じた時に対処できる親の割合	３か月児健康相談	100%	84.0%	78.4%	D（悪化）	100%	100%	育てにくさを感じた時に対処できる親の割合は減少しており、悪化しています。保護者が困ったときにいつでも相談できる体制を整え、悩みや問題の状況に応じ、専門職による相談を実施しました。家庭の状況に合わせたアセスメントをし、地域の子育て支援情報を提供するなど子育て家庭を支援していく必要があります。	妊娠届出時から妊婦に寄り添い、継続して信頼関係を築いていきます。また、保護者が困ったときにいつでも相談できる体制を整え、悩みや問題の状況に応じ、専門職によるきめ細かな相談を実施します。 ３か月児健康相談では、離乳食講習会や保健推進員が企画する「ホッとひといき子育て応援ルーム」等の案内を通じて、必要な情報の提供や、子育ての悩みを解消するための場の紹介にも務めます。	乳幼児健康診査健診時すこやか親子21アンケート	保健センター
		１歳６か月児健康診査	87.6%	75.4%	71.5%	D（悪化）	100%	100%	育てにくさを感じた時に対処できる親の割合は減少しており、悪化しています。年齢に応じた子育てに関する困りごとが増える時期であり、対象者への幼児の健康・発育、発達に関する情報提供、支援が必要な家庭には個別対応を行う必要があります。	保護者の悩みや不安に耳を傾け、適切な情報提供と支援を行うことで、保護者の不安軽減に努めます。 １歳６か月児健康診査時に配布するリーフレットでイヤイヤ期への対応方法など年齢に応じた対応方法に関する情報提供をします。また、子どもの発達相談室等の相談先を紹介します。	乳幼児健康診査健診時すこやか親子21アンケート	
		３歳児健康診査	86.6%	86.8%	87.5%	B（改善）	100%	100%	育てにくさを感じた時に対処できる親の割合は増加傾向です。 年齢に応じた子育てに関する困りごとが増える時期であり、対象者への幼児の健康・発育、発達に関する情報提供、支援が必要な家庭には個別対応を行う必要があります。	保護者の悩みや不安に耳を傾け、適切な情報提供と支援を行うことで、保護者の不安軽減に努めます。 ３歳児健康診査時に配布するリーフレットで年齢に応じた発育・発達に関する情報提供をします。また、子どもの発達相談室等の相談先を紹介します。	乳幼児健康診査健診時すこやか親子21アンケート	

野田市健康づくり計画　重点10分野における目標と取組

（９）つながりを生かし、健康を守り支える環境づくり

目標：つながりを生かし誰もが笑顔になれる、心と体の健康づくり

項目番号	項目内容		策定時Ｒ５年度実績	Ｒ６年度実績	Ｒ７年度実績	中間評価目標値に対する達成状況	中間評価目標値（R11年度）	目標値（R17年度）	Ｒ７年度の評価・課題	今後の取組	データソース	担当課
1	居住地域において、お互いに助け合っていると思う人の増加		42.7%	46.7%	実施なし	E（実施なし）	55%	60%	令和６年度の調査では増加し、改善傾向にあります。 地域における仲間づくりや、育児の孤立感の軽減を図るため、市民のつながりを生かした健康づくりに引き続き取り組む必要があります。	食生活改善推進員が中心となって実施している健康づくり料理講習会を通じ、健康的な食習慣の啓発活動と参加者同士の交流を推進します。また、保健推進員が実施する「ホッとひといき子育て応援ルーム」へ子育て世代が参加することで、世代間交流を図ると共に、子育て仲間の結びつきができるよう支援します。	千葉県生活習慣に関するアンケート調査（野田保健所管内）	保健センター
2	自分にはよいところがあると思う児童・生徒の増加	小学６年生	78.5%	83.3%	84.1%	B（改善）	90%	100%	自分にはよいところがあると思う児童・生徒の割合は微増となっています。各学校において、自己肯定感を高め、児童一人一人が認められる雰囲気のある学級づくり、授業づくりをしていく必要があります。	教師を対象とした研修会や指導課による学校訪問を通して、教員の授業力を上げる取り組みや学級経営の工夫等により児童の自己肯定感を高めていきます。	全国学力・学習状況調査	指導課
		中学３年生	78.6%	82.5%	84.7%	B（改善）	90%	100%				
3	【再掲】健康・スポーツアプリ(令和７年３月運用開始)の登録者数の増加		―	933人	2,623人	B（改善）	7,500人	12,000人	アプリ開始から、令和７年度は、登録者数が約1,700名増加し、利用者の半数以上が10～50歳代で、幅広い世代で利用されています。引き続き周知を行う必要があります。	登録者数の増加を目指すため、様々な健康づくりイベントにおいて、参加者へポイントを付与したり、現地でアプリの登録サポートをします。また、現状はつらつポイント事業に参加している市民がアプリに移行できるように、ＳＮＳ等を利用してアプリの魅力を発信していきます。	健康・スポーツアプリ	保健センター
4	望まない受動喫煙の機会を有する者の割合の減少		34.0%	39.9%	実施なし	E（実施なし）	28%	22%	令和６年度の調査では増加し、悪化傾向にあります。妊娠届出時、乳幼児健診、両親学級等の保健事業の活用や、小中学校の児童生徒に受動喫煙に関する情報提供を行うなど、今後も受動喫煙による健康被害について正しい知識を普及啓発していく必要があります。	あらゆる機を捉えて喫煙等のリスクに関する啓発や情報提供を推進できるよう、保健事業を活用するとともに、若い世代を対象とした正しい知識の普及を図るため、小・中学校等と連携した取り組みも継続します。	千葉県生活習慣に関するアンケート調査（野田保健所管内）	

野田市健康づくり計画　重点10分野における目標と取組

（１０）人の生涯を経時的にとらえた健康づくり

目標：乳幼児期から高齢期に至るまで、健康で生き生きとした生活を送るため、日常的な健康づくりの取組を通じて生活習慣病等の予防に努める

項目番号	項目内容		策定時 Ｒ５年度 実績	Ｒ６年度 実績	Ｒ７年度 実績	中間評価 目標値に対する達成状況	中間評価目標値 （R11年度）	目標値 （R17年度）	Ｒ７年度の評価・課題	今後の取組	データソース	担当課
1	【再掲】 幼児の肥満傾向児の減少	肥満度＋20%以上の幼児の割合（幼稚園・保育所等）	3.8%	4.2%	3.9%	D （悪化）	3.4%	3.1% 以下	肥満度+20%以上の幼児の割合は、横ばいで大きく変わらない傾向にあります。特に４、５歳児の肥満傾向児の割合が高いため、食習慣が形成される低年齢時からバランスの良い食生活やおやつの摂り方等について、各家庭へ普及啓発する必要があります。	栄養だより等を通じて、幼児期の食に係る情報を発信することで、子育て家庭の正しい食習慣の定着を図ります。 食事に関する相談会や乳幼児健診時の相談等、保護者からの相談に個別に応じることで、正しい食行動を促していきます。	幼稚園・保育所等肥満調査集計表	子ども保育課
2	【再掲】 児童・生徒の肥満傾向児の減少	肥満度＋20%以上の児童の割合（小学校）	12.5%	12.8%	13.7%	D （悪化）	11%	9.2% 以下	肥満度20%以上の割合は増加し、悪化傾向にあります。 要因として、コロナ禍で減少した運動習慣がそのまま定着してしまっていることに加えて、前年同様、熱中症対策等で運動量が減少していることが考えられることから、さらに運動習慣の定着を促す必要があります。	サマースクールでエアロビクスなどの運動を取り入れ、運動することの楽しさを参加者に伝え、運動習慣の定着に結び付けます。 引き続きすこやかノートの活用や、生活習慣病予防健診の実施により肥満予防の指導機会を創出していくとともに、養護教諭による個別の保健指導や管理栄養士による個別の栄養指導の推進のほか、家庭への啓発方法について検討していきます。	市内の全児童生徒対象の身体測定結果	学校教育課
		肥満度＋20%以上の生徒の割合（中学校）	12.1%	13.2%	12.9%	D （悪化）	11%	10% 以下	肥満度20%以上の割合は、前年度より減少し、改善傾向にありますが、コロナ禍で減少した運動習慣がそのまま定着してしまっていることに加えて、前年同様、熱中症対策等で運動量が減少していることが考えられることから、さらに運動習慣の定着を促す必要があります。	養護教諭による個別の保健指導や栄養士による個別の栄養指導を推進していきます。		
3	【再掲】 運動やスポーツを習慣的に行っていない子どもの割合の減少	小学５年生の男子	11.4%	13.9%	12.7%	D （悪化）	10%	7%	運動やスポーツを習慣的に行っていない子どもの割合（小学校５年生）が増加しており、悪化傾向にあります。今後、家庭との連携を図り、運動習慣が定着するよう普及活動をしていく必要があります。	引き続き、各学校において、体育を要として、運動が楽しいと思えるような授業を実施していきます。 教師を対象とした研修会等の中で、野田市の子どもの現状を伝えるとともに、各学校の実態に応じた取り組みの工夫ができないかを検討していきます。	全国体力・運動能力、運動習慣等調査	指導課
		小学５年生の女子	18.5%	21.8%	17.5%	B （改善）	14%	12%				

野田市健康づくり計画　重点10分野における目標と取組

（１０）人の生涯を経時的にとらえた健康づくり

目標：乳幼児期から高齢期に至るまで、健康で生き生きとした生活を送るため、日常的な健康づくりの取組を通じて生活習慣病等の予防に努める

項目番号	項目内容		策定時 Ｒ５年度 実績	Ｒ６年度 実績	Ｒ７年度 実績	中間評価 目標値に対する達成状況	中間評価目標値 （R11年度）	目標値 （R17年度）	Ｒ７年度の評価・課題	今後の取組	データソース	担当課
4	【再掲】 適正体重を維持している者の増加（肥満BMI25以上、やせBMI18.5未満の減少）	40～50歳代男性の肥満者割合	41.7%	43.0%	45.0%	D （悪化）	40% 未満	38% 未満	肥満者割合は増加し悪化傾向にあります。 バランスの良い食事や適正エネルギー摂取等について、特定健診および特定保健指導等の事業で普及啓発をより積極的に行う必要があります。	自身の適正体重を把握し生活習慣を見直す機会として、受診勧奨を行い、特定健診受診率の向上に取り組んでいきます。 特定保健指導は、内容を充実させ、対象者が継続的に取り組むことが出来るように支援していきます。	特定健診	保健センター
		40～60歳代女性の肥満者割合	25.0%	25.2%	25.5%	D （悪化）	23.5% 未満	22% 未満	肥満者割合は増加し悪化傾向にあります。 バランスの良い食事や適正エネルギー摂取等について、のだ健康・スポーツアプリや健康づくり料理講習会等の事業で普及啓発をより積極的に行う必要があります。	適正体重について、のだ健康・スポーツアプリを通じて、歩数や体重の変化を記録・確認することを推進し、日頃からバランスの良い食事や適正エネルギー摂取、身体活動量の増加に取り組めるようにします。 　また、健康づくり料理講習会をはじめとする食生活改善推進員活動を充実していきます。	特定健診	
5	【再掲】 1日30分以上の軽く汗をかく運動を週２日以上、１年以上実施している者の割合の増加	20～64歳	男性 37.9%	39.1%	41.6%	A （達成）	40%	43%	20歳から64歳の女性は、割合が減少しており、悪化傾向にあります。引き続き、運動習慣が定着するよう働きかけを行っていく必要があります。 市民が日常生活の中で無理なく継続して運動できる環境整備や、ライフステージに応じた運動機会の充実を図るとともに、運動習慣の定着に向けた普及啓発を継続して実施する必要があります。	のだ健康・スポーツアプリを活用し、室内で手軽にできる運動についての情報提供や、健康づくりに関するイベントや健康に関する情報発信をするとともに、参加者へアプリポイントの付与を行うことで運動習慣の定着を目指します。 ウォーキング教室や特定保健指導等を通じてウォーキングや筋力トレーニング等、日常生活の中で無理なく取り組める具体的な方法について情報提供を行い、個人にあった適度な運動が習慣化できるように支援していきます。	特定健診・若者健診	
			女性 32.2%	29.2%	30.2%	D （悪化）	35%	38%				
		65～74歳	男性 50.3%	52.4%	51.8%	B （改善）	55%	60%				
			女性 46.3%	49.4%	48.3%	B （改善）	50%	55%				
6	【再掲】 20～30歳代女性のやせの者の割合		17.6%	18.3%	13.9%	A （達成）	16% 未満	14% 未満	やせの者の割合は減少し改善傾向にありますが、引き続き経年変化を注視していく必要があります。 そのため、今後もバランスの良い食事や適正エネルギー摂取等についての普及啓発をより積極的に行う必要があります。	20～30代女性のやせのリスクについて、乳幼児健診や離乳食講習会、がん検診（子宮・乳）の場を利用して情報提供していきます。 のだ健康・スポーツアプリを活用し、体重の管理を行えるよう周知していきます。	若者健診	
7	【再掲】 妊娠中の喫煙をなくす		2.5%	2.0%	3.1%	D （悪化）	0%	0%	喫煙している妊婦の割合が増加傾向にあります。そのため、妊娠届出時に喫煙のリスクについて説明を行い、その後も電話などで状況を確認し、アドバイスを行っています。今後も継続して周知・啓発に取り組む必要があります。	妊娠届出時や乳幼児健診等の機を捉え、喫煙や受動喫煙が胎児・乳児に与える影響についての注意喚起・啓発を行います。また、妊娠中も喫煙を続けている方に対しては、継続して禁煙に向けた支援を行っていきます。	妊娠届出時の聞き取り調査結果	
8	【再掲】 妊娠中の飲酒をなくす		0.6%	0.7%	0.5%	B （改善）	0%	0%	妊娠中の飲酒をやめる方の割合が横ばいです。そのため、妊娠届出時に妊産婦の飲酒が胎児に与える影響について説明を行い、その後も電話などで状況を確認し、アドバイスを行っています。今後も継続して周知・啓発に取り組む必要があります。	妊娠届出時や乳幼児健診等の機を捉え、飲酒が胎児・乳児に与える影響についての注意喚起・啓発を行います。また、妊娠中も飲酒を継続している方に対しては、継続して禁酒に向けた支援を行っていきます。	妊娠届出時の聞き取り調査結果	

中間評価目標値に対する達成状況とＤ（悪化）に対する取組

＜目標の評価方法＞

Ａ達成　　：現状値が目標に達した

Ｂ改善　　：現状値が目標に達していないが改善傾向にある

Ｃ現状維持：現状値が変わらない（達成率※±5％以内）

Ｄ悪化　　：現状値が悪化している

Ｅ実施なし：目標設定以降、調査等が実施されていない等の理由で
現時点では評価できない

※達成率について
達成率＝（策定時の値－現状値）÷（策定時の値－目標値）×100

（１）栄養・食生活・食育

目標：バランスの良い食事を心がけ、ライフステージを通じて適正体重を維持する

	項目番号	項目内容		策定時 Ｒ５年度 実績	Ｒ６年度 実績	Ｒ７年度 実績	中間評価 目標値 （R11年度）	目標値 （R17年度）
A （達成）	4	学校給食において主な地場産物を使用する割合		51.7%	42.6%	53.8%	53%	60% 以上
	5	適正体重を維持している者の増加（肥満BMI25以上、やせBMI18.5未満の減少）	20～30歳代女性のやせの者の割合	17.6%	18.3%	13.9%	16% 未満	14% 未満
B （改善）	3	朝食を欠食する児童・生徒の減少	中学校１～３年生の朝食欠食割合	8.5%	（10月） 9.4%	（10月） 7.9%	8.2%	6.9%
	6	朝食を食べる者の割合の増加（朝食を抜くことが週に３回以上ない人の増加）	18歳以上の者の割合	86.2%	87.6%	87.2%	88% 以上	90% 以上
D （悪化）	1	幼児の肥満傾向児の減少	肥満度＋20%以上の幼児の割合（幼稚園・保育所等）	3.8%	4.2%	3.9%	3.4%	3.1% 以下
	2	児童・生徒の肥満傾向児の減少	肥満度＋20%以上の児童の割合（小学校）	12.5%	12.8%	13.7%	11%	9.2% 以下
			肥満度＋20%以上の生徒の割合（中学校）	12.1%	13.2%	12.9%	11%	10% 以下
	3	朝食を欠食する児童・生徒の減少	小学校４～６年生の朝食欠食割合	6.1%	（10月） 6.2%	（10月） 6.8%	6%	4.6%
	5	適正体重を維持している者の増加（肥満BMI25以上、やせBMI18.5未満の減少）	40～50歳代男性の肥満者割合	41.7%	43.0%	45.0%	40% 未満	38% 未満
			40～60歳代女性の肥満者割合	25.0%	25.2%	25.5%	23.5% 未満	22% 未満
	7	農家開設型貸農園利用者数		533人	516人	513人	560人	616人
	8	直売所における１日平均利用者数		281人	288人	268人	295人	310人
	9	えだまめオーナー制度利用人数		346人	346人	296人	381人	457人

＜D(悪化)に対する今後の取組＞

・児童・生徒の実態に合わせた食育指導・保健指導

・食育だより等を活用し、保護者を通じて子どもの朝食摂取やバランスのよい食事について啓発

・保健だより等を活用し、肥満予防や規則正しい生活習慣について啓発

・健康づくり料理講習会を「1日元気に朝食のススメ」などのテーマで実施

・のだ健康・スポーツアプリを通じて、体重管理や定期的な食に関するコラムの配信

（２）身体活動・運動

目標：　正しい知識を取得し、運動習慣の定着を目指し、各ライフステージで楽しく体を動かす

	項目番号	項目内容		策定時 Ｒ５年度 実績	Ｒ６年度 実績	Ｒ７年度 実績	中間評価 目標値 （R11年度）	目標値 （R17年度）
A （達成）	2	1日30分以上の軽く汗をかく運動を週２日以上、１年以上実施している者の割合の増加	20～64歳	男性 37.9%	39.1%	41.6%	40%	43%
B （改善）	1	運動やスポーツを習慣的に行っていない子どもの割合の減少	小学５年生の女子	18.5%	21.8%	17.5%	14%	12%
	2	1日30分以上の軽く汗をかく運動を週２日以上、１年以上実施している者の割合の増加	65～74歳	男性 50.3%	52.4%	51.8%	55%	60%
			65～74歳	女性 46.3%	49.4%	48.3%	50%	55%
	3	健康・スポーツアプリ(令和７年３月運用開始予定)の登録者数の増加		―	933人	2623人	7,500人	12,000人
D （悪化）	1	運動やスポーツを習慣的に行っていない子どもの割合の減少	小学５年生の男子	11.4%	13.9%	12.7%	10%	7%
	2	1日30分以上の軽く汗をかく運動を週２日以上、１年以上実施している者の割合の増加	20～64歳	女性 32.2%	29.2%	30.2%	35%	38%

＜D(悪化)に対する今後の取組＞

・体育の授業を中心に「運動が楽しい」と思える授業を各学校で実施

・のだ健康・スポーツアプリを活用し、歩数や健康記録に応じたポイント付与、運動の動画配信

・ウォーキング教室を実施し、正しい歩き方を啓発

・特定保健指導を通じて、無理なく続けられる運動についての情報提供

（３）休養・睡眠

目標：睡眠について正しい知識を身につけ、十分な睡眠をとる

	項目番号	項目内容		策定時 Ｒ５年度 実績	Ｒ６年度 実績	Ｒ７年度 実績	中間評価 目標値 （R11年度）	目標値 （R17年度）
D （悪化）	1	睡眠で休養がとれている者の増加	20歳～59歳	72.2%	70.9%	69.9%	80.0%	90%
			60歳以上	76.4%	74.7%	73.4%	84.0%	90%

＜D(悪化)に対する今後の取組＞

・ホームページやSNSを活用し、良い睡眠のためのポイントの情報提供及び睡眠や休息を確保する必要性についての普及啓発

・健診後の保健指導等通じて、生活習慣に合わせた休養・睡眠に関する助言

・睡眠時間を記録するのだ健康・スポーツアプリを提供

（４）喫煙

目標：喫煙について正しく知り、健康被害から自分自身を守る

	項目番号	項目内容		策定時 Ｒ５年度 実績	Ｒ６年度 実績	Ｒ７年度 実績	中間評価 目標値 （R11年度）	目標値 （R17年度）
D （悪化）	3	妊娠中の喫煙をなくす		2.5%	2.0%	3.1%	0%	0%
E （実施なし）	1	喫煙率の減少 （喫煙をやめたい方がやめる）	男性	22.1%	12.4%	実施なし	15%	10%
			女性	10.6%	7.8%	実施なし	8.8%	5%
	2	喫煙が健康に及ぼす影響について正しい認識を持つ人を増やす		96.0%	81.4%	実施なし	100%	100%

＜D(悪化）に対する今後の取組＞

・妊娠届出時や乳幼児健診等で、喫煙や受動喫煙が胎児・乳児に与える影響等の注意喚起・啓発

・妊娠中の喫煙者に対して禁煙に向けた個別支援の実施

（５）飲酒

目標：飲酒についての正しい知識を身につけ、適正な飲酒量を知る

	項目番号	項目内容		策定時 Ｒ５年度 実績	Ｒ６年度 実績	Ｒ７年度 実績	中間評価 目標値 （R11年度）	目標値 （R17年度）
B （改善）	2	妊娠中の飲酒をなくす		0.6%	0.7%	0.5%	0%	0%
D （悪化）	1	生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している人を減らす ※令和６年度より特定健診・若者健診の問診（飲酒）における回答選択肢の変更があり、計画策定時（令和５年度）との単純比較には留意が必要	男性	12.6% ※１	14.0%	14.9%	10%	8%
			女性	9.4% ※２	11.2%	11.2%	7%	5%

※１生活習慣病のリスクを高める量･･･１日当たりの純アルコール摂取量が40ｇ以上
「毎日×２合以上」+「時々×３合以上」
※２生活習慣病のリスクを高める量･･･１日当たりの純アルコール摂取量が20ｇ以上
「毎日×１合以上」+「時々×２合以上の半数」+「ほとんど飲まない×３合以上」
※１、２　Ｒ５年度時点で、県と同項目での現状値がないため、上記の同等値として記載

＜D(悪化)に対する今後の取組＞

・栄養相談や健診後の保健指導等を通じて、アルコールが健康に及ぼす影響や適正な飲酒量に関する正しい知識の普及啓発

（６）歯と口腔の健康

目標：むし歯・歯周病を予防し、生涯を通じてしっかりかんでおいしく食べる

	項目番号	項目内容		策定時 Ｒ５年度 実績	Ｒ６年度 実績	Ｒ７年度 実績	中間評価 目標値 （R11年度）	目標値 （R17年度）
A （達成）	2	１歳６か月児で毎日保護者が仕上げみがきをする習慣のある者の増加		91.2%	95.2%	95.2%	95%	97%
	3	12歳児（中学１年）でう蝕のない者の割合の増加		65.8%	78.8%	77.0%	70.5%	82%
B （改善）	1	３歳児でう蝕(しょく)のない者の割合の増加		90.4%	92.0%	91.5%	95%	97%
	6	進行した歯周炎を有する者の割合の減少	40歳代	58.1%	56.0%	52.4%	40%	25%
			60歳代	60.2%	61.1%	55.4%	45%	40%
	7	未処置歯を有する者の割合の減少	60歳代	25.2%	25.8%	22.8%	20%	15%
	8	過去１年間に歯科健診を受けている者の割合の増加	60､70歳代	39.4%	47.4%	40.2%	55%	70%
	9	60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の割合の増加		91.6%	91.2%	92.7%	95%	97%
	11	定期的に歯科健診を実施する特別養護老人ホーム及び老人保健施設の割合の増加		82.4%	88.2%	88.2%	100%	100%
D （悪化）	4	中学生における歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少		5.8%	5.9%	7.9%	5.4%	5%
	5	20歳代における歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少		43.9%	48.6%	57.8%	20%	10%
	7	未処置歯を有する者の割合の減少	40歳代	28.6%	34.8%	33.3%	20%	15%
	8	過去１年間に歯科健診を受けている者の割合の増加	40､50歳代	34.6%	33.4%	30.1%	50%	65%
	10	80歳で20歯以上の自分の歯を有する者の割合の増加		77.0%	77.4%	69.0%	85%	90%

＜D(悪化）に対する今後の取組＞

・保健だよりを発行し、歯周病予防や正しい生活習慣の重要性について周知

・歯周疾患検診を実施し、歯科健診の機会を提供

・市報やまめメール、SNS等を活用し、定期的な歯科健診の重要性や歯周疾患検診の受診勧奨の実施

（７）生活習慣病の発症予防と重症化予防

目標：健康に関する知識を持ち、健康づくりに励む

	項目番号	項目内容		策定時Ｒ５年度実績	Ｒ６年度実績	Ｒ７年度実績	中間評価目標値（R11年度）	目標値（R17年度）
A（達成）	2	高血圧の改善（収縮期血圧の平均値）	女性	130.4 mmHg	129.4 mmHg	129.8 mmHg	130 mmHg未満	130 mmHg未満
	4	血糖値の改善（ＨｂＡ１ｃ（ＮＧＳＰ値）8.0以上の者の割合）	女性	0.7%	0.7%	0.6%	0.6%	0.5%
B（改善）	1	がん検診受診率の増加	肺がん検診（女性）	13.7%	14.8%	14.3%	20%	25%
	2	高血圧の改善（収縮期血圧の平均値）	男性	131.7 mmHg	130.1 mmHg	130.7 mmHg	130mmHg未満	130mmHg未満
	3	脂質異常の改善（ＬＤＬコレステロール160mg/dl以上の者の割合）	男性	7.2%	7.0%	6.5%	5%	3%
			女性	12.1%	11.7%	11.3%	8%	5%
C（現状維持）	1	がん検診受診率の増加	肺がん検診（男性）	9.8%	10.3%	9.9%	13%	20%
			大腸がん検診（女性）	16.5%	16.1%	16.3%	25%	30%
D（悪化）	1	がん検診受診率の増加	胃がん検診（男性）	3.6%	3.5%	3.4%	6.5%	10%
			胃がん検診（女性）	5.7%	5.5%	5.0%	11%	15%
			大腸がん検診（男性）	10.5%	10.2%	10.1%	16%	20%
			子宮頸がん検診	14.3%	14.6%	14.0%	18%	25%
			乳がん検診	19.3%	19.2%	18.6%	25%	30%
	4	血糖値の改善（ＨｂＡ１ｃ（ＮＧＳＰ値）8.0以上の者の割合）	男性	0.8%	1.4%	1.5%	0.7%	0.6%

＜D(悪化)に対する今後の取組＞

・がん検診に関する啓発物の全戸配布や受診率向上キャンペーンの実施

・医療機関や公共施設でのポスター掲示、市内企業へのチラシ配布等の実施

・子育て世代に向けて乳幼児健康診査、離乳食講習会等での啓発物の配布とがん検診の申し込み受付

・特定保健指導等を通じて、対象者に合わせた具体的な生活習慣改善の支援

（８）母子保健

目標：すべての親子が健やかに暮らすことができる

	項目番号	項目内容		策定時Ｒ５年度実績	Ｒ６年度実績	Ｒ７年度実績	中間評価目標値（R11年度）	目標値（R17年度）
A（達成）	８	麻しん風しん予防接種１期接種率		89.0%	94.8%	99.9%	95%以上	95%以上
B（改善）	１	妊娠11週以下の妊娠届出率を増やす		91.5%	92.1%	91.7%	95%	95%
	４	【再掲】妊娠中の飲酒をなくす		0.6%	0.7%	0.5%	0%	0%
	７	乳幼児健康診査の受診率	１歳６か月児健康診査	97.7%	96.4%	99.8%	100%	100%
		乳幼児健康診査の受診率	３歳児健康診査	92.6%	95.7%	94.3%	100%	100%
	９	この地域で今後も子育てをしていきたい者の割合	１歳６か月児健康診査	94.0%	92.6%	94.6%	100%	100%
		この地域で今後も子育てをしていきたい者の割合	３歳児健康診査	93.1%	93.0%	94.3%	100%	100%
	１０	育てにくさを感じた時に対処できる親の割合	３歳児健康診査	86.6%	86.8%	87.5%	100%	100%
D（悪化）	２	低出生体重児の割合の減少		9.7%	11.2%	12.0%	減少	減少
	３	【再掲】妊娠中の喫煙をなくす		2.5%	2.0%	3.1%	0%	0%
	５	妊婦歯科健康診査の受診率		21.7%	16.9%	17.1%	25%	30%
	６	乳児家庭全戸訪問の実施率を上げる		97.2%	97.2%	94.9%	99.5%	99.5%
	９	この地域で今後も子育てをしていきたい者の割合	３か月児健康相談	95.0%	95.1%	92.7%	100%	100%
	１０	育てにくさを感じた時に対処できる親の割合	３か月児健康相談	100%	84.0%	78.4%	100%	100%
		育てにくさを感じた時に対処できる親の割合	１歳６か月児健康診査	87.6%	75.4%	71.5%	100%	100%

＜D(悪化）に対する今後の取組＞

・早産リスクを低減するための生活習慣改善に関する情報提供

・母子手帳アプリ（のだ♡はぐ）やＳＮＳを活用した母子保健事業の周知と子育て情報の発信

・妊娠、出産、子育ての悩みに対して専門職による相談や支援

・育児ストレスや子どもの発達に関する正しい知識の提供と支援が必要な家庭に対しての早期介入

（９）つながりを生かし、健康を守り支える環境づくり

目標：つながりを生かし誰もが笑顔になれる、心と体の健康づくり

	項目番号	項目内容		策定時Ｒ５年度実績	Ｒ６年度実績	Ｒ７年度実績	中間評価目標値（R11年度）	目標値（R17年度）
B（改善）	2	自分にはよいところがあると思う児童・生徒の増加	小学６年生	78.5%	83.3%	84.1%	90%	100%
			中学３年生	78.6%	82.5%	84.7%	90%	100%
	3	【再掲】健康・スポーツアプリ(令和７年３月運用開始)の登録者数の増加		―	933人	2,623人	7,500人	12,000人
E（実施なし）	1	居住地域において、お互いに助け合っていると思う人の増加		42.7%	46.7%	実施なし	55%	60%
	4	望まない受動喫煙の機会を有する者の割合の減少		34.0%	39.9%	実施なし	28%	22%

＜今後の取組＞

・教師を対象とした研修会の実施、指導課の学校訪問による教員の指導に対する支援の実施

・様々な健康づくりイベントで、のだ・健康スポーツアプリ登録会の実施

（１０）人の生涯を経時的にとらえた健康づくり

目標：　乳幼児期から高齢期に至るまで、健康で生き生きとした生活を送るため、日常的な健康づくりの取組を通じて生活習慣病等の予防に努める　※この分野は、再掲項目となります。

	項目番号	項目内容		策定時Ｒ５年度実績	Ｒ６年度実績	Ｒ７年度実績	中間評価目標値（R11年度）	目標値（R17年度）
A（達成）	5	【再掲】1日30分以上の軽く汗をかく運動を週２日以上、１年以上実施している者の割合の増加	20～64歳	男性37.9%	39.1%	41.6%	40%	43%
	6	【再掲】20～30歳代女性のやせの者の割合		17.6%	18.3%	13.9%	16%未満	14%未満
B（改善）	3	【再掲】運動やスポーツを習慣的に行っていない子どもの割合の減少	小学５年生の女子	18.5%	21.8%	17.5%	14%	12%
	5	【再掲】1日30分以上の軽く汗をかく運動を週２日以上、３年以上実施している者の割合の増加	65～74歳	男性50.3%	52.4%	51.8%	55%	60%
			65～74歳	女性46.3%	49.4%	48.3%	50%	55%
	8	【再掲】妊娠中の飲酒をなくす		0.6%	0.7%	0.5%	0%	0%
D（悪化）	1	【再掲】幼児の肥満傾向児の減少	肥満度＋20%以上の幼児の割合（幼稚園・保育所等）	3.8%	4.2%	3.9%	3.4%	3.1%以下
	2	【再掲】児童・生徒の肥満傾向児の減少	肥満度＋20%以上の児童の割合(小学校)	12.5%	12.8%	13.7%	11%	9.2%以下
			肥満度＋20%以上の生徒の割合(中学校)	12.1%	13.2%	12.9%	11%	10%以下
	3	【再掲】運動やスポーツを習慣的に行っていない子どもの割合の減少	小学５年生の男子	11.4%	13.9%	12.7%	10%	7%
	4	【再掲】適正体重を維持している者の増加（肥満BMI25以上、やせBMI18.5未満の減少）	40～50歳代男性の肥満者割合	41.7%	43.0%	45.0%	40%未満	38%未満
			40～60歳代女性の肥満者割合	25.0%	25.2%	25.5%	23.5%未満	22%未満
	5	【再掲】1日30分以上の軽く汗をかく運動を週２日以上、２年以上実施している者の割合の増加	20～64歳	女性32.2%	29.2%	30.2%	35%	38%
	7	【再掲】妊娠中の喫煙をなくす		2.5%	2.0%	3.1%	0%	0%